

【ATC フィロソフィ②】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。



ウェブサイト:

<https://arc-tec-com.com>

Tel : 050-6864-6201

Fax : 050-6864-6202

E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

素直な心

今月は弊社のフィロソフィの紹介と応援メッセージをお送りします。

弊社のフィロソフィの続きです。

素直な心を持つ

【素直な心とは、自分自身のいたらなさを認め、そこから努力するという謙虚な姿勢のことです。

とかく能力のある人や気性の激しい人、私の強い人は、往々にして人の意見を聞かず、たとえ聞いても反発するものです。しかし本当に伸びる人は、素直な心を持って人の意見をよく聞き、常に反省し、自分自身を見つめることのできる人です。そうした素直な心でいると、その人の周囲には

やはり同じような心根を持った人が集まってきて、物事がうまく運んでいくものです。

自分にとって耳の痛い言葉こそ、本当は自分を伸ばしてくれるものであると受けとめる謙虚な姿勢が必要です。素直な心とは、自分自身のいたらなさを認め、そこから努力するという謙虚な姿勢のことです。】

先述の「愛と誠と調和の心をベースとする」「きれいな心で願望を描く」、そしてこの「素直な心を持つ」、さらには次に出てくる「常に謙虚であらねばならない」、これらを並べてみると、優しい語感の言葉が並んでいることに気づきます。

特にこの「素直な心を持つ

つ」という言葉は、おとなしく「右向け右」と言われれば右を向くといった、従順な意味合いについついとられがちですが、決してそうではありません。素直になるということは、周りの環境や状況を知り、自分の思いや考え方の不十分な内容や、人として間違えていることを理解し、毎日反省し改善しようと努力することです。例えばこの状態で、他人から頂ける辛辣なアドバイスは神の声になり、自ら心を高める助けになります。

素直な心は進歩の親

「素直な心を持つ」ということは、私達の人生にとってたいへん大事なことでと思います。「素直な心」

というものは進歩の親だと思っています。素直な心がないければ、人間は成長、進歩していかないからです。

この「素直な心」の大切さを説いたのが、松下幸之助でした。松下幸之助は、小学校さえも満足に行っていないのに、あのパナソニックという大企業をつくり上げました。その原動力となったのは素直な心なのです。

松下幸之助は戦前すでにすばらしい成功を収めていました。そこでもし傲岸不遜になり、「自分は偉い」と思いあがっていたとすれば、おそらくそこで終わっていたことでしょう。しかし、年をいくつ重ねても、「自分には学問がない。学校も出ていない」と言って、「耳学問であっても、他人様に教えてもらって自分を成長させていこう」という姿勢を変えようとはしませんでした。そのため、人の意見を聞いて物事を学び、それを通じて生涯発展、進歩を遂げていたわけです。

「素直な心」とは、自分のいたらなさを認め、そこから努力する謙虚な姿勢であり、それこそが成功の鍵なのです。

常に謙虚であること

【世の中が豊かになるにつれて、自己中心的な価値観を持ち、自己主張の強い人が増えてきたと言われています。しかし、この考え方ではエゴとエゴの争いが生じて、チームワークを必要とする仕事などできるはずはありません。

自分の能力やわずかな成功を鼻にかけ、傲岸不遜になるようなことがあると、周囲の人たちの協力が得られないばかりか、自分自身の成長の妨げにもなるのです。

常にみんながいるから自分が存在できるという認識のもとに、謙虚な姿勢を持ち続けることが大切です。】

常に謙虚であらねばならないということは、素直であることと同様、謙虚であることも学びの源となります。

中国の古典に「謙のみ福を受く」という言葉があります。傲慢な人間は幸運、幸福は得られない、謙虚な心の持ち主しかそれを得ることはできない、という意味です。謙虚、つまり「謙」と言うとは何かみっともないような感じを抱かれる人もあるかもしれませんが、それは誤りです。人は、自分に誇るものが何もないからこそ威張り、ふんぞり返って自己顕示欲を満たそうとするものなのです。たとえ控えめに、謙虚に振る舞うことによって他人から馬鹿にされても、それは馬鹿にする人間が間違っているのです。

少しうまく行き成功するとすぐに天狗になる人がいますが、それではそれ以上の発展はあり得ません。せっかく神様が成功できるようにしてくださったのに、謙虚さを失い、傲慢になるものだから、たちまちに転落してしまうような羽目に陥るわけです。常に謙虚であらねばならないというこ

とをぜひ肝に銘じてください。
い。

※2024年11月号に続きます。

応援メッセージです。

0 から 1 へ。0 から 0.0001 へと言う方が正確かもしれない。無から有へと言う言い方もあります。

0 はどこまで行っても、いくつ足しても、いくつ掛けても0なのです。どんな大それたことでも、大きな夢でも、思わなければ0です。

しかし、ほんの少し思うだけで、0 では無くなりません。例えそれが、実現性が0.0001%であっても、0 ではありません。可能性が出てきたのです。思うことの偉大さは、0 からの脱却にあるのです。思いもせず、批判している0よりも、下手でもいいから、「思う」という0.0001の方が、遥かに価値があります。

0.0001 の思いは、表面的には昨日と何も変わりません。しかし、お釈迦様の

言葉にあるように「この世界は心に導かれ、心に引きずられ、心の支配を受けている」からすると、可能性を生み出し、無から脱却したという大変革をしているのです。誰の目にも何の変化も無いし、本人でさえ、気づかない変革なのです。

つぎに、この変革を形あるものするために、思いを強めること、思い続けることです。これもあまりに簡単なので、誰もが軽視しますが、何もしなくとも、思いを強めること、思い続けることは非常に重要なことです。

思い続けることが出来たら、自然に心から思いが溢れ出し、行動したいという衝動になります。

そして稚拙な一歩を踏み出すのです。

論理的でもない、計画性も無い一歩でいいから、行動するのです。ここまで来たなら、道のりの8割以上は成功したのと同然です。

どんなに行き詰まっても行動し続けることです。

しかし稚拙な一歩では、絶対にうまく行きません。まったく歯が立たない。壁が途方も高く、大きく、^{ひる}怯んでしまう。やればやるほど無理と思えてしまうが、トライし続けることです。

トライし続けると、一つ一つに解やノウハウが生まれ、これを積み重ねて行くと、どれだけ高い壁も乗り越えられることになります。

そして、壁を乗り越えたところで見える景色は、思い描いていた景色とは違うこともあります。

それは、行動し続けている間にも思い続けていたので、その思いが、変化、昇華して見たい景色が変わって来るのです。

そのことを「人格が高まった」と言います。

豊原 信